

The Dramatic World

—世界は都市の只中に—





■大阪 難波・精華小学校跡地
大阪、ミナミの玄関口、南海難波駅から程近く、精華小学校として地域の人々に愛され、利用されてきた建物がある。1973年に創立し、長い間、大阪ミナミ地域の子供の学び舎として機能していたが、児童数の減少により、1995年に大阪市立南小学校に統合される形で廃校となった。

現在、旧精華小学校跡地は精華生涯学習ルーム、精華小劇場として利用されているものの、うまく機能しておらず、大阪市によって処分売却される予定である。

■関西演劇界
関西の演劇界の元気がない

かつて漫遊五郎と呼ばれた我が国芝居文化の発祥地とも言われる劇場街を抱えていた道頓堀を中心として、芝居・劇場文化の豊富な集積が備わっている地域性を有しているが、昨今の長引く市況の低迷から、演劇を取り巻く状況は劇場自体が相次いで閉鎖するなど、非常に厳しい状況に置かれている。

特に大阪では、03年に「関西小劇場のメッカ」と呼ばれたQMS（原町ミュージアムスクエア）の閉鎖を皮切りに、04年には同く関西の主要小劇場であった近鉄小劇場も閉鎖される。

さらに、それらに取って代わる存在であった、大阪城ホール西倉庫を創始化していたウルトラマーケットも10年3月の閉鎖が決定しており、大阪に存在する約200もの劇団の活動の場、表現の場が減少の一途を辿っている。

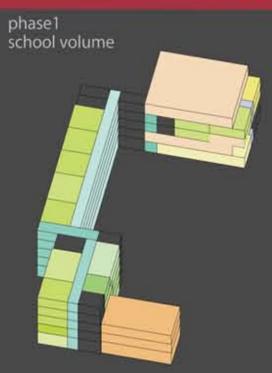
そこで今回の計画では、地域に馴染みの深い学校施設という特性から、市民と芸術が触れ合う場を提供し、舞台芸術への関心を高めると共に、関西演劇界の再生を目的とする。

精華小学校の面には戎橋筋商店街、南には南海通り商店街、北にはなんば本通り商店街が通っており、3方をアーケードで覆われた、活気ある商店街に囲まれるように位置する。精華小学校の東側は南海通り商店街となんば本通り商店街を繋ぐ筋が通っており、アーケードは無く、開放感はあるものの、3つの商店街に比べて人通りは格段に少ない。旧精華小学校は商店街の裏に位置し、街から気配を消しているようにも感じられる。

更に駅前からの眺望も商店街から連続する店舗の看板によって、旧精華小学校は視線を遮られ、そこには存在することが認識されにくくなっている。

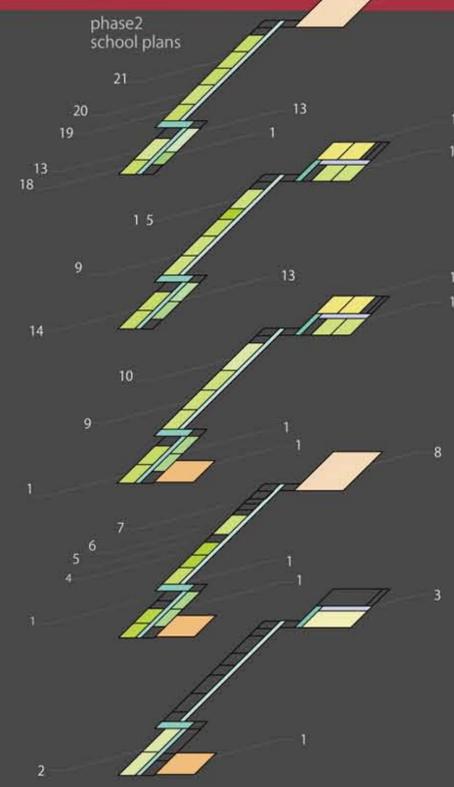
そこで、今回の計画では、戎橋筋商店街と、南海通り商店街の店舗部分を含めた旧精華小学校跡地を対象敷地とすることで、都市の真ん中に劇場空間が出現し、小学校に造詣の深い地域の人々に限らず、大阪ミナミを訪れる不特定多数の人達にも劇場文化に関心を持ってもらうことが期待できると考える。

Site and Diagram



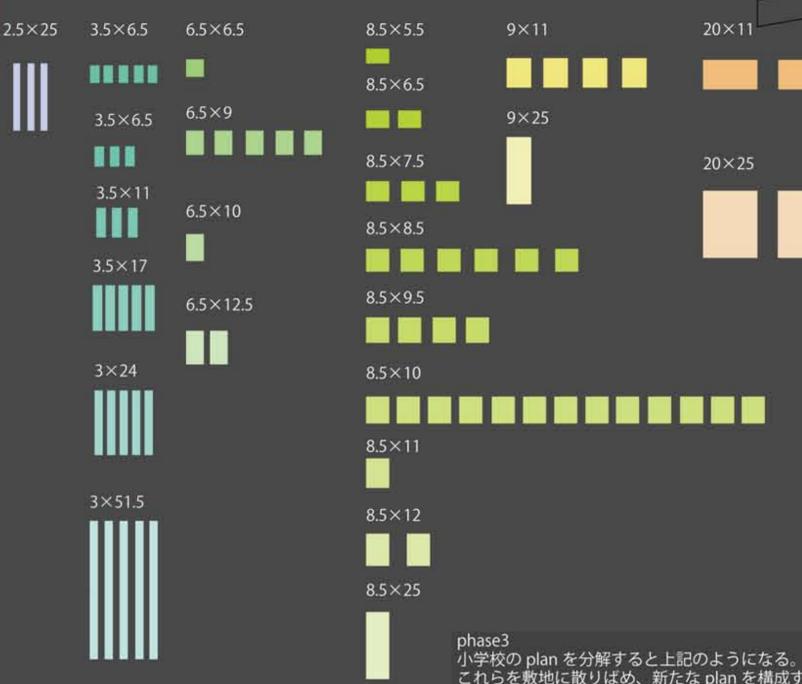
phase1
既存建築物である小学校のヴォリューム。地域の子供たちの学び舎であったものが、地域住民を含めた多くの人の演劇を学ぶ場となるように何らかの形で建築的にも継承することを考える。

phase2
今回の計画では小学校の平面を継承する。右図は当時の小学校のplanであり、体育館や講堂といった大きな空間、細く長い廊下といったように様々なスケールの空間が存在する。これを一度1つ1つに分解し、再構成することによって多種多様な空間を創出できると考える。



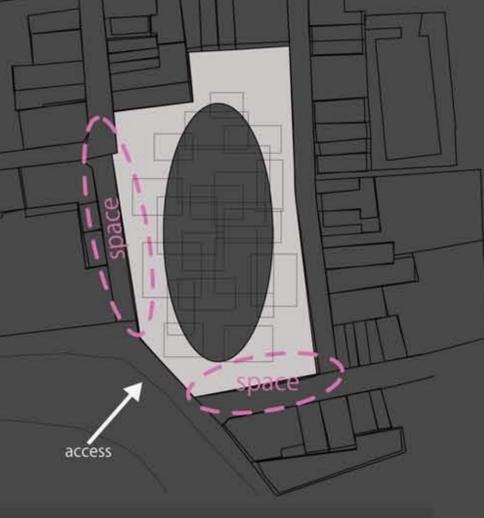
- 1 Infant school
- 2 Dining room
- 3 Underground holl
- 4 Sick bay room
- 5 Meeting room
- 6 Principal's office
- 7 Teacher's room
- 8 Gymnasium
- 9 Class room
- 10 Play room
- 11 Science room
- 12 Home economics room
- 13 Music room
- 14 Table tennis room
- 15 School child metting room
- 16 Library
- 17 Technology room
- 18 Seika's room
- 19 Child assosiation room
- 20 Drawing and manual arts room

phase3 school plans scale



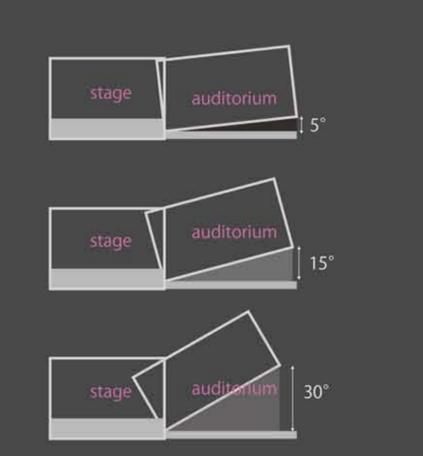
phase3
小学校のplanを分解すると上記のようになる。これらを敷地に散りばめ、新たなplanを構成する。

phase4 layout diagram



phase4
敷地全体に楕円を描くように1つ1つの長方形を配置していく。楕円に沿う形で並べる為、商店街に面する部分が自然とセットバックされ、商店街との間に新たなスペースが生まれる。
更に駅に面するようであった商店部分のヴォリュームは取り除き、旧精華小学校の問題点であったアクセスを有効なものとした。

phase5 inclination diagram

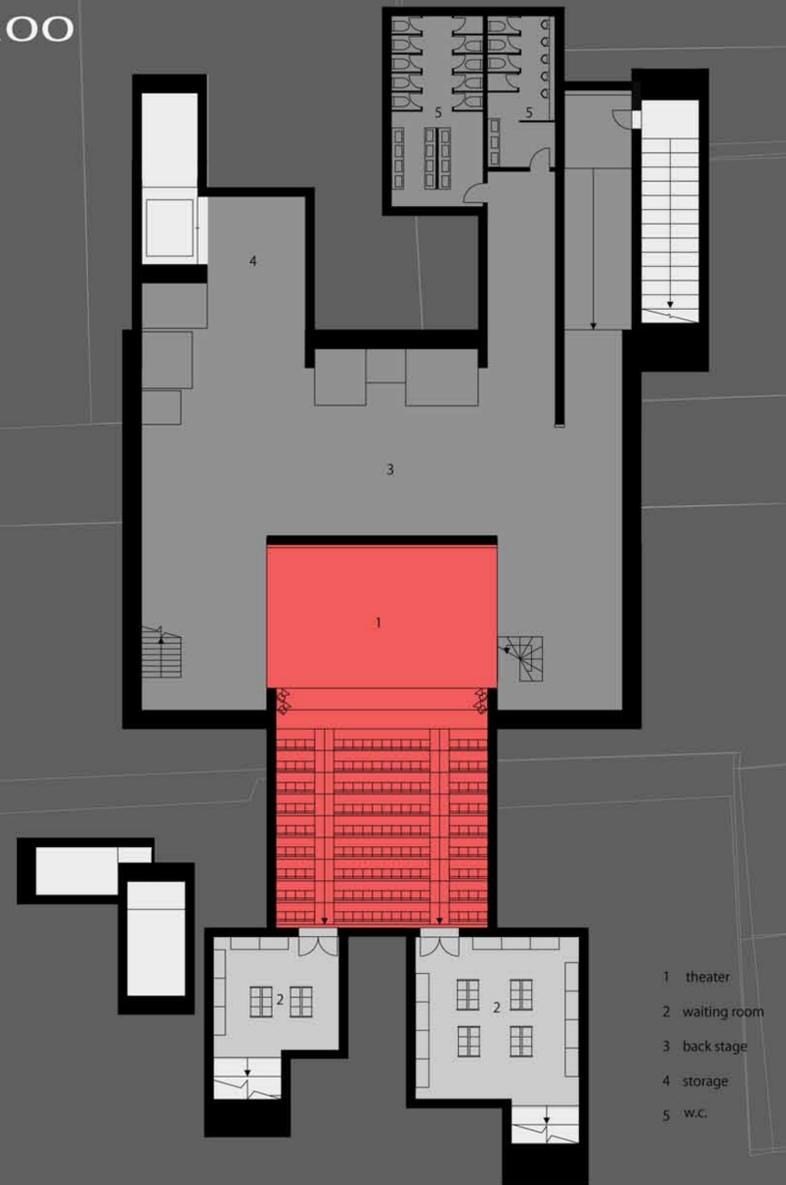


phase5
劇場空間（ステージと観客席の関係）は5°～15°の傾斜が望ましいとされており、最大傾斜は30°が限界である。そこで、劇場空間だけでなく、それを取り巻く複合施設にもこの傾斜を展開することで、様々な場所で劇場空間が生まれる。傾いたボリュームが切り取る風景は、それが何気ないものであっても芝居の一部のように感じられる。

Plans

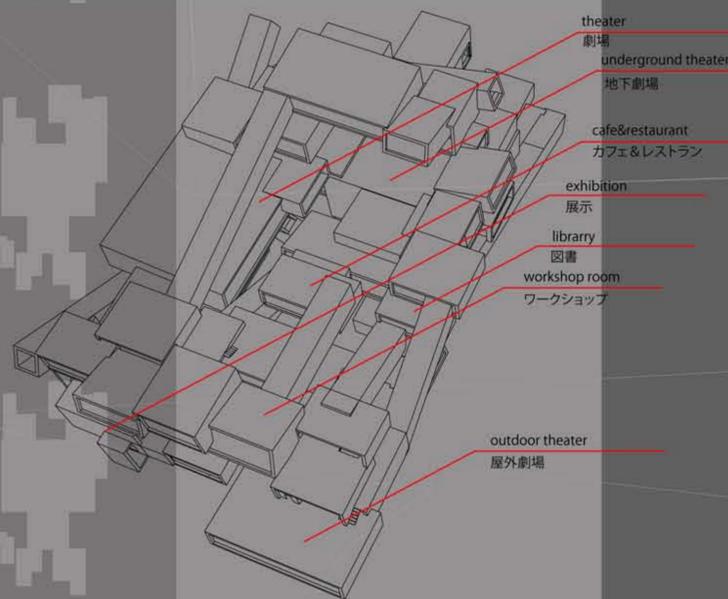
S=1/200

- theater
- workshop
- exhibition
- shop
- lecture
- library
- rest space
- backyard



GL-3000 plan

Program



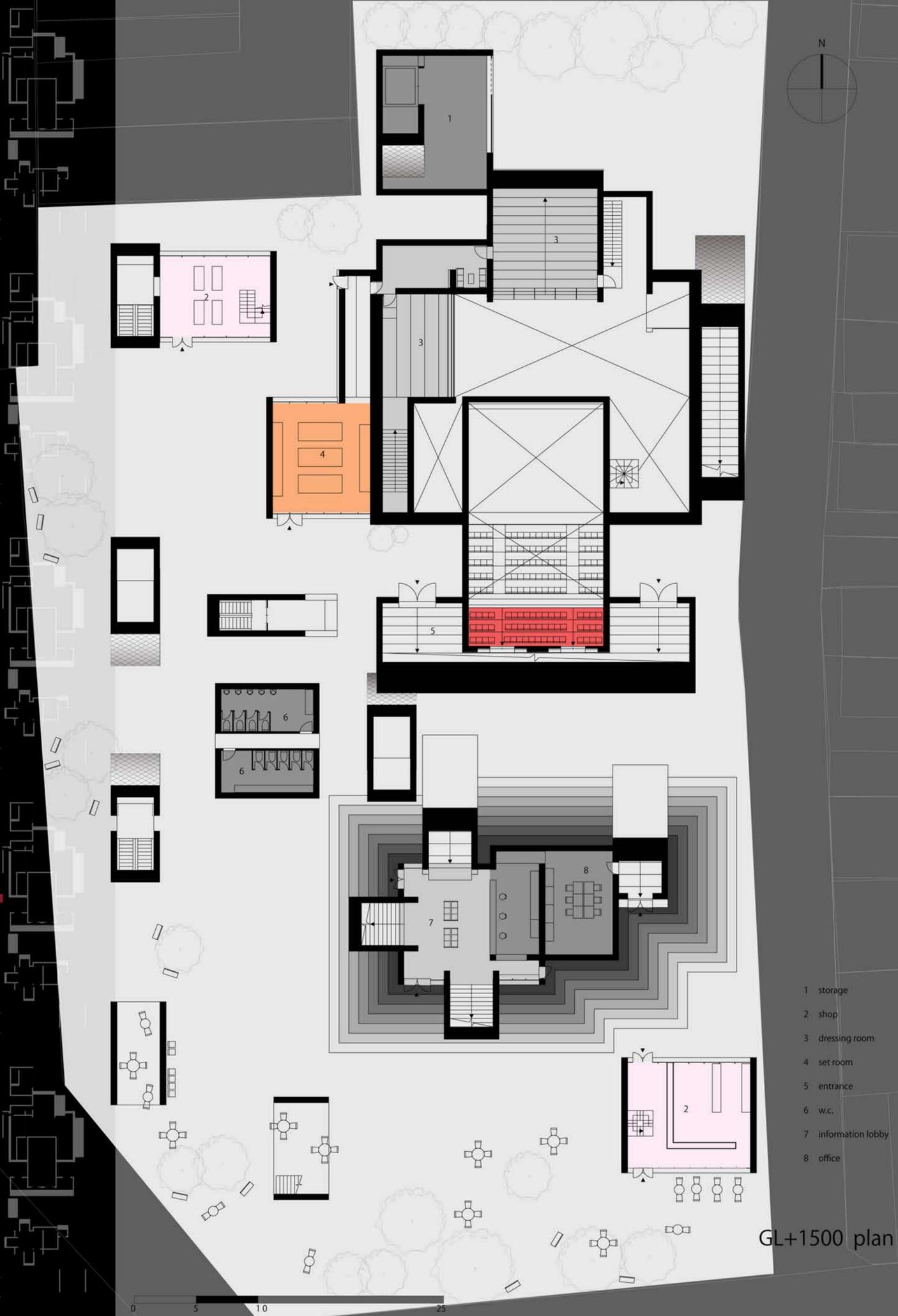
小学校、商店街の一部を敷地とし計画された本施設は、演劇を通じた文化教育の場であると共に、商店街の店舗の主な機能であった飲食の機能を持つ複合施設である。

さらに、難波という都市において人々がとどまり、休憩できる場として利用でき、傾斜5°の緩やかな傾きの屋根面は、都市を行き交う人々がゆっくりできる屋上公園のような機能を併せ持つ。

劇場を中心として、ワークショップが行われるスペースや講義室、稽古場などが設けられ、劇団員と訪れる人々を繋げる。一般人参加型の劇がワークショップの成果物として上演されることも想像できる。

また、傾斜のある場所はそこにいる人を巻き込んで、瞬時に劇場空間へと変化する可能性を持ち、そのようにして、そこにあるものが舞台装置となり、日常であった世界が突然、演劇という虚構の世界へと様変わりするような演出も起こりうる。

各機能は分散的に配置され、色々な場所で様々な場面に遭遇する。筒状のヴォリュームによって切り取られる風景は、刻一刻と変化し続ける。



GL+1500 plan

- 1 storage
- 2 shop
- 3 dressing room
- 4 set room
- 5 entrance
- 6 w.c.
- 7 information lobby
- 8 office

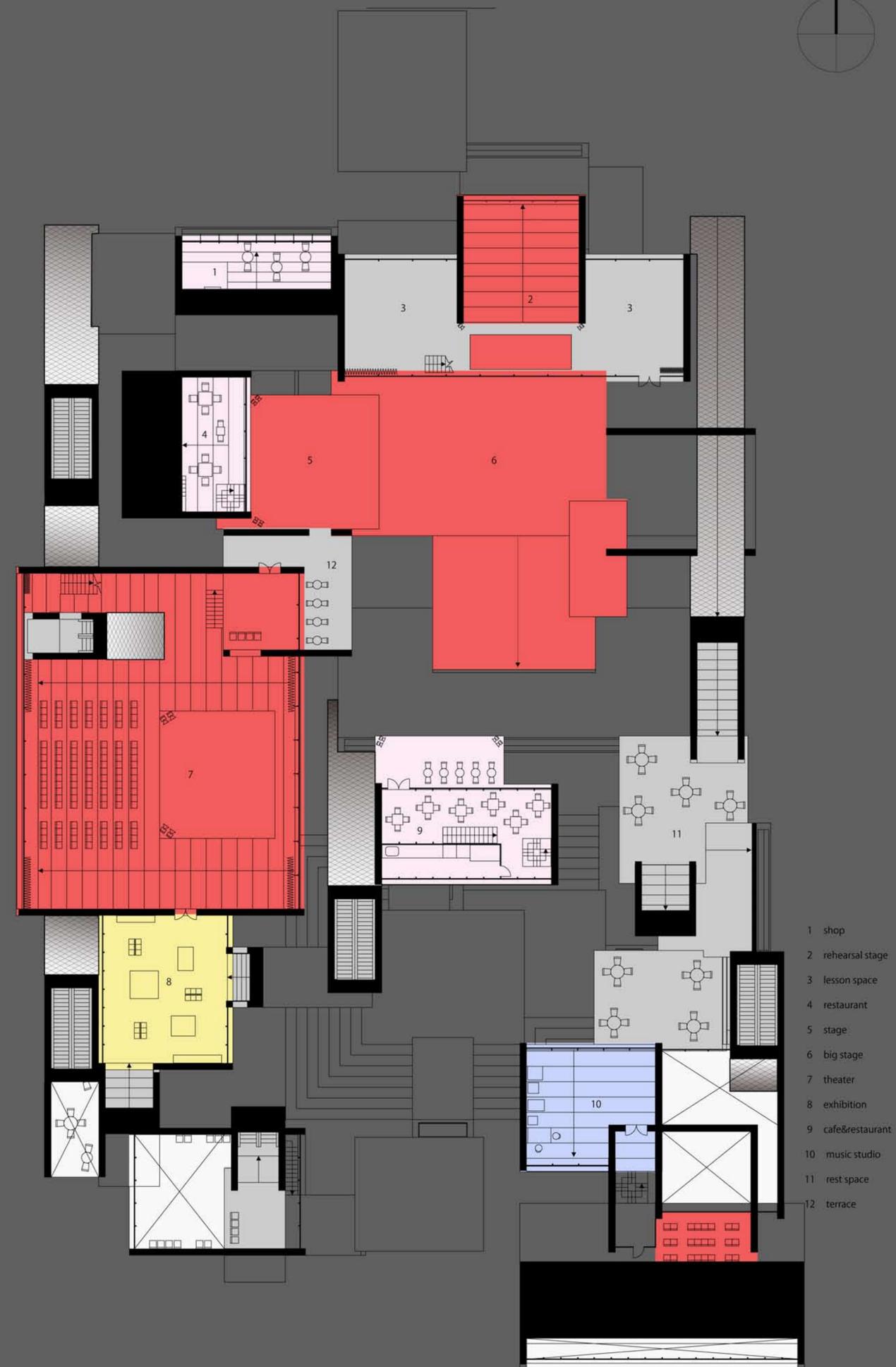
0 5 10 25

Plans

S=1/200



GL+4500 plan



GL+8000 plan

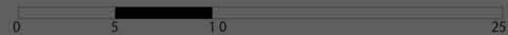
Plans

S=1/200



- 1 lesson space
- 2 audio-visual room
- 3 workshop
- 4 office
- 5 outside theater
- 6 restaurant reception

GL+11500 plan

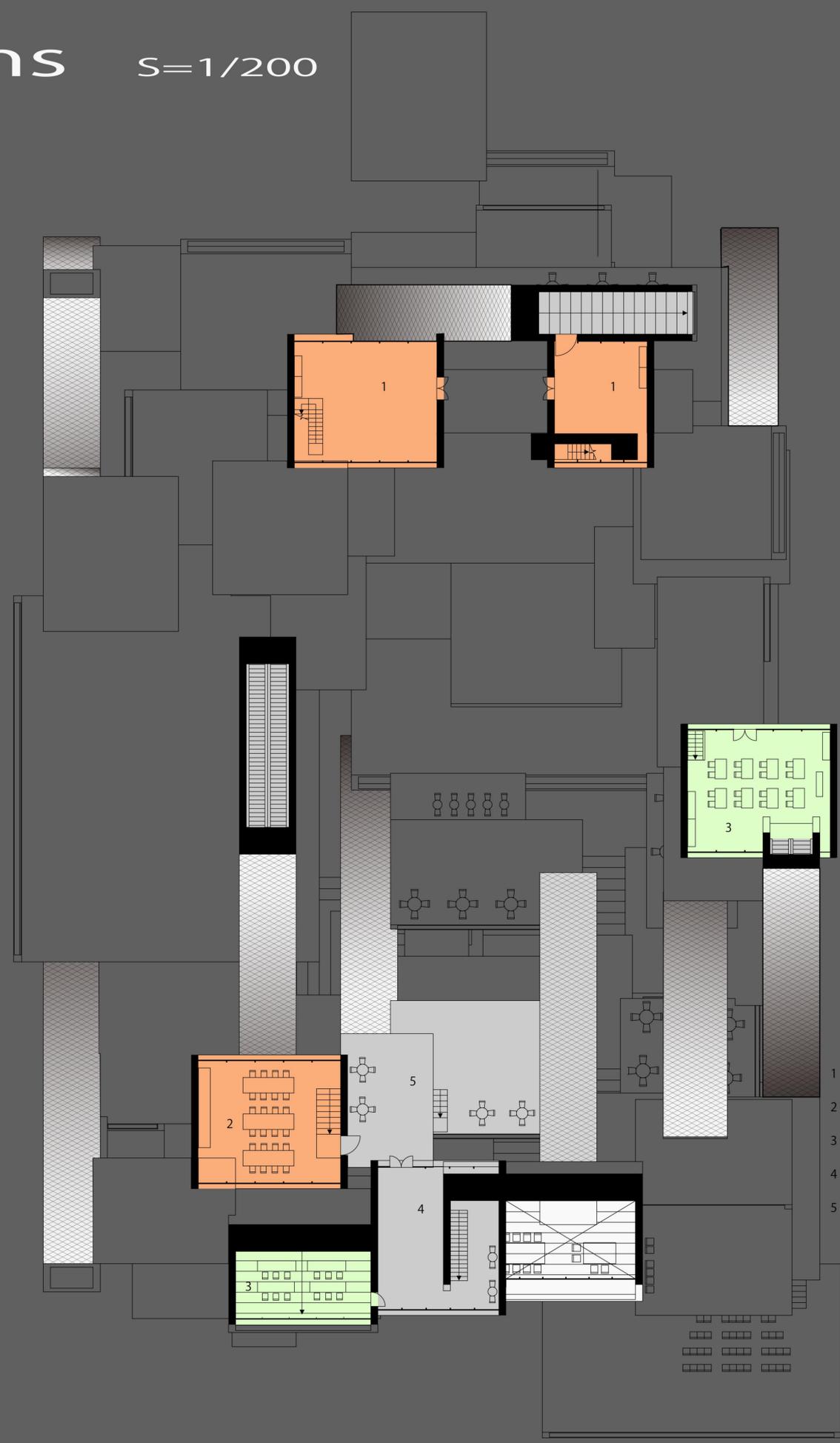


- 1 kitchen
- 2 rooftop plaza
- 3 information
- 4 workshop
- 5 lecture room
- 6 terrace

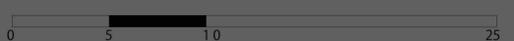
GL+14500 plan

Plans

S=1/200



- 1 rehearsal studio
- 2 workshop
- 3 lecture room
- 4 rest space
- 5 terrace



GL+18000 plan



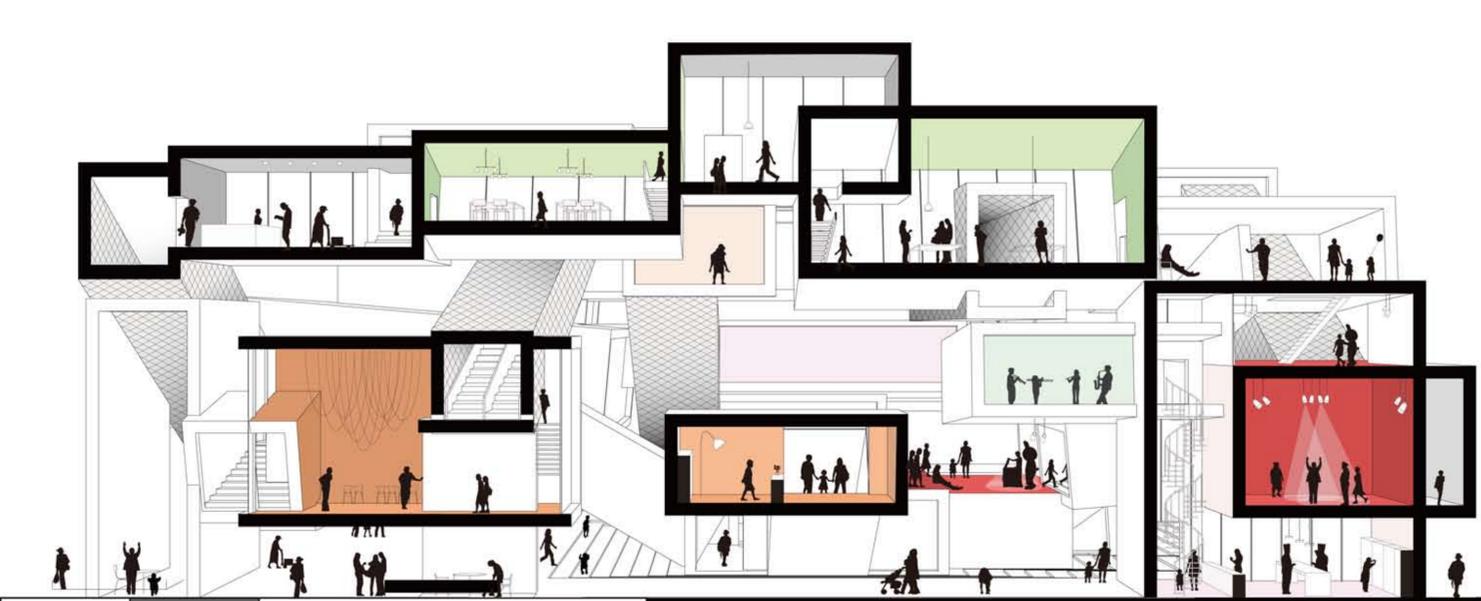
- 1 view terrace

GL+21000 plan

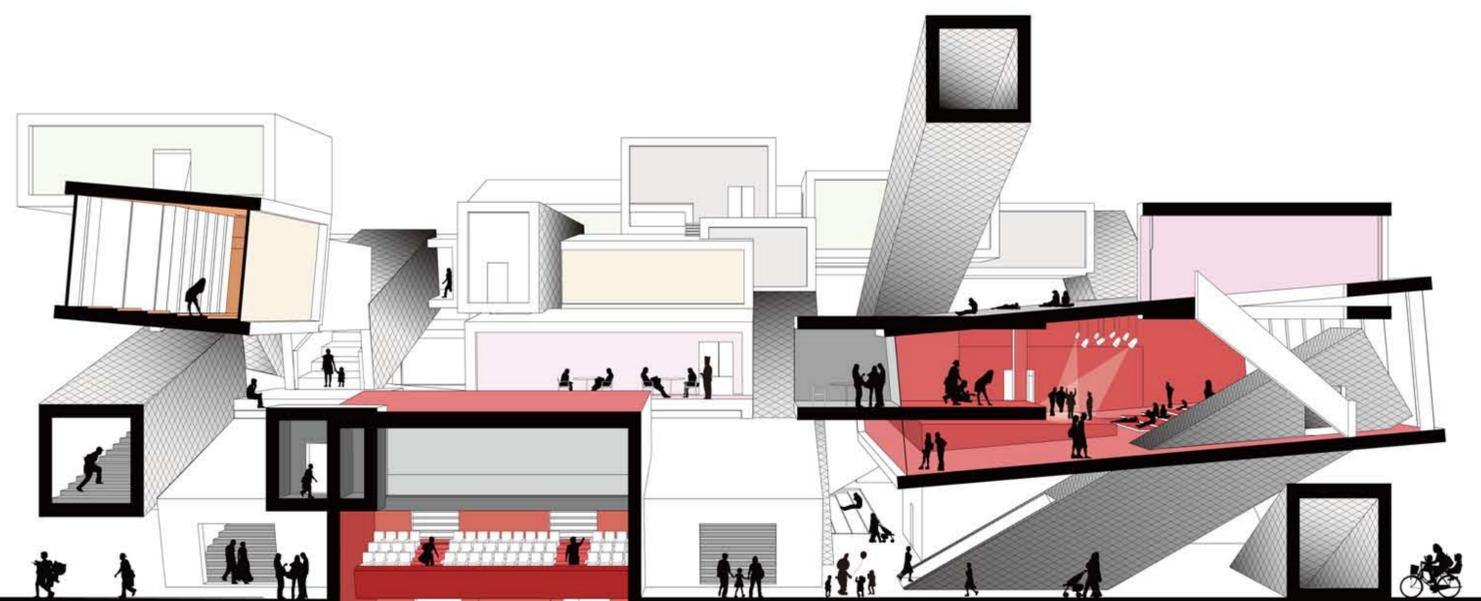
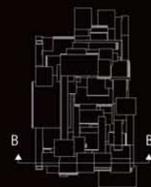


A-A' section S=1/150

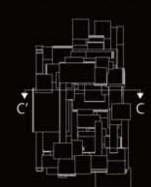




B-B' section S=1/150



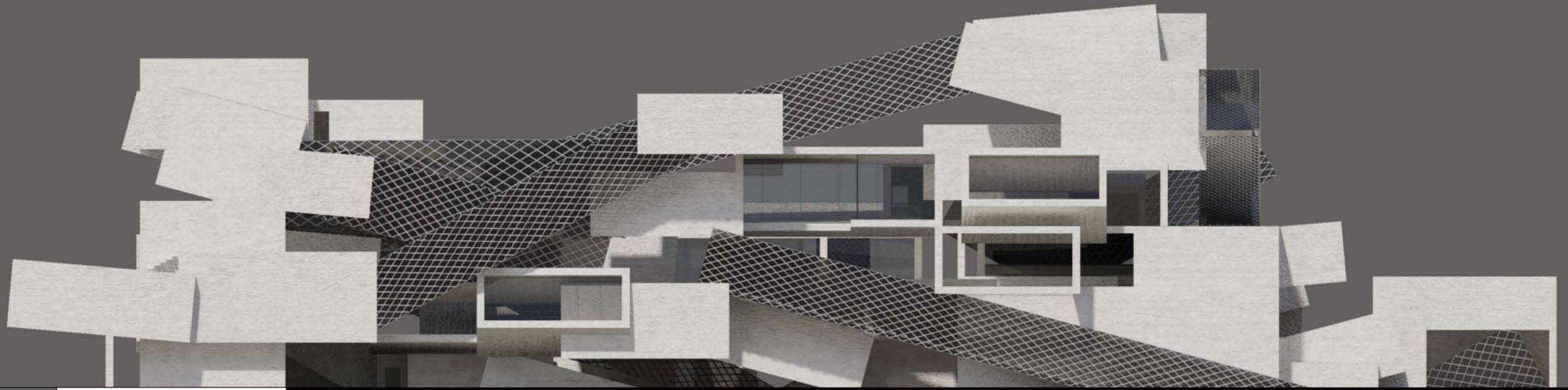
C-C' section S=1/150



south elevation S=1/150



north elevation S=1/150



west elevation S=1/150



east elevation S=1/150

Scenes

